とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1．活動のテーマ

<テーマ>

稲づくり

<テーマの設定理由>

日頃家庭や幼稚園の給食で口にしているお米が心と体を支えている大切な「食」であることを子ども自身が感じ、それと同時に「食」に対しての感謝の気持ちを持てるよう、この活動を取り入れた。稲づくりの中から、稲に興味関心を示し、自然の恵みや力・食物の育つ力も感じていけるようにしたいと考えた。自園では、自家製給食を行っており「食育」には力を入れている為、日頃より「食」に対しては興味関心を持っている。そのため更に「食」に対して関心を持てるよう稲の栽培に取り組んだ。

2．活動スケジュール

R7,4～R8,2　　定期的

3．探究活動の実践

<活動の内容>

５月に数種類の土を準備し、子どもたちと混ぜ合わせバケツに入れていった。その間に部屋で容器に種もみを入れ,芽が出るのを待った。
土を混ぜる際に「おいしくなーれ　おいしくなーれ」とう姿があり、これから始まる活動に興味を示していることを感じた。また、種もみから芽が出る様子を、毎日水を変えながら、楽しみにしている様子が伺えた。
その後種まきを行い、稲の分げつ・分げつが進み穂が出る様子・お米ができる・等の過程を子どもたちは観察画にして記録をしていき、稲の成長を感じていった。
お米ができた後は稲刈りを自分たちで行い、その後牛乳パック等を使い脱穀を行い、すり鉢と野球ボールでもみすりを行った。精米にする際は、お米屋さんに行き、お米屋さんから直接お米の話を聞いたり質問をする等、お米屋さんとの交流を取った。精米になったお米は保護者が集まる行事の際に、自分たちでおにぎりを作り保護者と一緒に食べた。
藁になった稲は、その後地域の方に来ていただき、リースの作り方を教わり、それぞれ自分たちのリースづくりを行った。１年間の活動を、２月の作品展の際に紹介し、子どもたちの様子の展示の他に、子どもたちが描いた観察画も展示し、最後に作ったリースも展示した。











４．振り返り

稲づくりでは様々な工程があり、一つ一つに子どもたちが興味を持ち真剣に取り組んでいたり、楽しんで取り組んでいる様子が伝わった。保護者におにぎりを御馳走できたことは、子どもたちにとっても喜びだったようだ。

日ごろ食べている「お米」の食べられるまでの過程を知ることができ、そこから自然の恵みに感謝をする良い機会となった。又、保護者と一緒にそれを食べる事で喜びを感じたり「食」や食物の育つ力を感じられる活動になった。